

(1)共産主義者同盟統一委員会・機関誌『共産主義』

●復刊準備号(65年8月1日レポルシオン社).....

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| ①「復刊を準備するにあたって」 | 共産主義編集委員会 |
| ②「討論の呼びかけ—共産主義同盟の再建に向けて」 | 「共産主義」編集委員会(文責・正木) |
| ③「労働運動の現況と我々の課題」 | 松本礼二 |
| ④「反帝社会主義の現代的課題」 | 飛鳥浩治郎 |
| ⑤「最近の国際国内情勢に寄せて」 | 松村三郎 |
| ⑥「秋の日韓ベトナム闘争に向けて、我々の隊列を強化せよ」 | 芦川達明 |
| ⑦「資本主義の世界性と経済学の方法」 | 佐々木和雄 |
| ⑧「(特別寄稿)世界資本主義の危機は切迫しているか」 | 下條寿郎 |
| ⑨「(特別寄稿)プロレタリア権力への道」 | 門松暁鐘 |

●復刊1号(65年12月1日先駆社).....

- | | |
|-------------------------------------|--------------|
| ①「闘争の現局面と『共産主義』復刊にあたって」 | 共産主義者同盟統一委員会 |
| ②「革命的労働者学生は同盟に結集せよ！第一回中央委員会総会議案書抄録」 | |
| ③「戦後政治過程の終焉」 | 咲谷 漢 |
| ④「創価学会論ノート」 | 佐々木和雄 |
| ⑤「教育労働運動への試論」 | 浅川澄子 |
| ⑥「後進国革命とベトナム南部解放闘争」 | 野崎 透 |
| ⑦「日本共産党批判」 | 飛鳥浩次郎 |
| ⑧「(特別寄稿)マルクス主義とプロレタリア革命」 | 岩田 弘 |

(2)共産主義者同盟・機関誌『共産主義』

●第8号(66年10月8日戦旗社).....

- ①特集 共産主義者同盟統一再建第六回大会決定
- 1 反帝闘争をプロレタリア日本革命へ 現代における永続革命とわれわれの任務
 - 2 左翼統一戦線と同盟の組織戦術 何が労働運動に要求されているのか
 - 3 反帝闘争における学生運動の任務
 - 4 ベトナム反戦闘争を反帝反政府闘争へ
 - 5 レーニン党を組織せよ
 - 6 共産主義者同盟規約
- ②現代永続革命と反帝闘争 飛鳥浩次郎

●第9号(66年12月15日戦旗社).....

- | | |
|--------------------------------|-----------|
| ①流動する政治情勢と日本階級闘争 | 政治局 |
| ②野党攻勢から労働攻勢へ—職場に強固な実力闘争部隊を築こう— | 赤崎次郎・秋本道夫 |
| ③東交反合理化闘争と左翼統一戦線 | 仏 徳二 |
| ④時評 永続する「学園闘争」について | |
| ⑤疎外革命論批判—序説(寄稿) | 門松暁鐘 |
| ⑥スターリン主義の再編成(上) | 松村三郎 |

- ⑦ベトナム戦争と中国紅衛兵—文化大革命の意味するものは何か— 杉村宗一
- ⑧戦後民主主義体制の動揺と反帝闘争—既成指導部批判を通じて— 芦川達明
- ⑨現代民主主義と永続革命 飛鳥浩次郎

●第10号(67年6月10日戦旗社).....

- ①砂川・小選挙区と七〇年安保への闘い 政治局
- ②「産業政策」と労働運動—当面する課題は何か— 労対部
- ③六七年学生運動の任務 学対部
- ④深化する日本資本主義の動揺と国内攻撃の現局面 狭山繁治・永井 優
- ⑤ヨーロッパ不況の歴史的意義とヨーロッパ政治体制の動揺 杉村宗一・笹原安夫
- ⑥東交労働組合と日本階級闘争 仏 徳二
特集・階級形成と前衛党
- ⑦階級意識・階級形成・戦略戦術 水沢史郎
- ⑧職場抵抗・工場委員会・労働組合 佐々木和雄
- ⑨社青同解放派の観念性はどこからくるか 北田 肇
- ⑩革共同中核派の観念性はどこからくるか 早川 勝
- ⑪構造派民主主義の市民的性格 正木真一
- ⑫シンポジウム＝中国—文化大革命か社会大革命か(過渡期社会の階級闘争)

●第11号(68年6月1日戦旗社) 共産主義者同盟第七回大会決定集.....

はじめに

①序 七回大会の意義と任務

②総括

- 第一章 共産主義者同盟の統一再建
- 第二章 反戦反帝闘争と共産主義者同盟
- 第三章 帝国主義的全社会再編攻勢と同盟の闘い
- 第四章 六回大会から七回大会へ

③情勢

- 第一章 戦後階級闘争敗北の総括
- 第二章 平和共存期の階級闘争
- 第三章 帝国主義の侵略・反革命に抗し国際的階級危機を世界革命へ転化せよ

④任務

- 第一章 世界同時革命の基本的任務
- 第二章 諸闘争の位置づけと我々の任務
- 第三章 諸階級諸階層及び諸党派と七〇年安保
- 第四章 同盟の任務
- 第五章 大衆組織に於ける同盟の任務

●第12号(68年12月1日戦旗社).....

①日帝打倒・安保粉碎と当面する情勢—第四回中央委員会議案報告—	
②現代帝国主義と過渡期世界における階級危機の性格と形態	さらぎ徳二
③現代帝国主義と70年安保	旭凡太郎
④〈寄稿〉全学連運動の世界史的任務	藤本敏夫
⑤過渡期社会と世界革命戦略—チェコ問題が突きつけた課題—	野田 晋
⑥米資本主義の歴史的危機と国際情勢	山中 敦
⑦フランスの革命的高揚	佐々木和雄

●第13号(69年10月1日戦旗社) 共産主義者同盟第9回大会報告決定集.....

I 革命闘争の時代の開始と共産主義者

- (1) 八回大会以降の情勢の進展とわが同盟の革命的試練
- (2) 「革命闘争の時代」と階級形成
- (3) 革命闘争=党の闘争の時代
- (4) 政治過程論と党建設

II 過渡期世界と世界一國同時革命—綱領的視点の確立—

III 過渡期世界における階級危機と世界革命への戦略的展望

- (1) 過渡期世界とは何か
- (2) 過渡期世界の危機の性格と形態
 - (一) 過渡期世界の成立
 - (二) 過渡期世界の展望
 - (三) 過渡期世界の危機
 - (四) 過渡期世界の階級闘争の質
 - (五) 世界革命戦争の戦略の確立にむけて

IV 国際階級危機の前期的成熟と安保決戦

- (1) 国際階級危機の前期的成熟
 - (一) はじめに
 - (二) 帝国主義国
 - (三) 後進国
 - (四) 「労働者国家」群
- (2) 戦略・運動・組織論の確立と安保決戦における我々の任務
 - (一) なしとせずしブロック化と帝国主義の侵略・抑圧・反革命
 - (二) 大衆の分解と党に要求される新しい質
 - (三) 反帝統一戦線とソビエト運動の現段階
 - (四) 70年安保=日米反革命同盟再編の国際的位置と安保粉碎闘争の国際的任務
 - (五) 安保粉碎闘争を日帝打倒・世界革命戦争へ

V 世界革命戦争の軍団建設と同盟の党的飛躍

- (1) 軍事・軍事と党
 - (一) はじめに

- (二) 革命戦争の時代
- (三) 国際共産主義運動と世界革命戦争
- (四) 過渡期世界の危機と世界革命戦争
- (五) 世界赤軍＝正規軍建設
- (六) 革命戦争の時代の開始と同盟の前進
- (七) 新地平の開拓と同盟の苦闘
- (八) 党内闘争—分派闘争
- (九) おわりに

〈補〉

(2) 世界党建設に向けて

VI 同盟と反帝統一戦線・ソビエト運動

補足●第14号(71年2月1日中央戦旗社—12・18 プント).....

第一部 八派共闘解体 蜂起をめざす単一党建設を！ 共産同中央委員会
 非合法軍事組織の敵対物 解党主義＝日向一派を放逐せよ 共産同政治局
 党内闘争の革命的推進のために 烽火・左派編集委員会

第二部 わが同盟の立脚点について

- 第一章 わが同盟の過渡期世界論総括
- 第二章 世界プロレタリア独裁の綱領的諸問題

第三部 理論戦線九・十号批判

- ①日向「方法論主義＝客観主義」批判
- ②「ソビエト型革命」論の俗流化批判とマルクス主義の純化
- ③革命論の宇野経済学への解消
- ④軍事反対派の経済学的基礎

宇野経済学批判(上) 榎原 均
 宇野労働力商品化論批判 旭凡太郎
 宇野学派の共産主義論の誤謬と日向共産主義論の破産の根拠 鈴木路彦
 東北地方委員会よりの報告
 「鉄の戦線」派の主張

補足●第15号(71年6月20日中央戦旗社—12・18 プント).....

主張 国際主義と非合法党 共産同政治局

- (一) 日本帝国主義の侵略反革命前線基地＝沖縄を武装闘争の砦とせよ
- (二) 日本階級闘争の転換点とわれわれの道
- (三) 反革命軍事体系と対決しうる国際非合法党建設へ
- (四) レーニン第三インター建設のための闘いとわれわれ
- (五) 新しい国際主義のスローガンについて

特集 反革命革マル派の理論的基礎(前編) 黒田理論批判

- ①黒田方法論・弁証法の批判

- ②黒田理論の経済学上の誤謬—『資本論以降百年』批判
- ③物質・労働・主体性論の誤謬—『ヘーゲルとマルクス』批判
- ④黒田の歴史観の観念性—『社会観の探求』批判
- ⑤資本主義批判と階級闘争の誤謬—『プロレタリア的人間の論理』批判

宇野経済学批判(中)

榎原 均

レーニン帝国主義論の右翼社民的改作—『宇野経済政策論』批判

旭凡太郎

ニセ『共産主義』14号批判

- ①蜂起を組織する党の任務—日向論文批判
- ②右翼社民に転落した室伏＝日向の正体を暴く
- ③スターリン主義解体のために(序)

●補足第14号(71年7月10日戦旗社—戦旗派).....

〈第一報告〉九大会九中委決定報告

I 七〇年代同盟活動の政治組織総括

II 国際・国内情勢

III 当面する我々の任務と方針

- ①沖繩闘争の革命的展開のために
- ②入管体制粉碎闘争の前進に向けて
- ③叛軍闘争
- ④三里塚闘争
- ⑤破防法粉碎闘争

IV 資料(戦旗より)

- ①七・六赤軍派除名
- ②情況・叛旗除名
- ③野合右派除名

〈第二報告〉野合右派批判の深化のために

I 陰性の講座派へ 榎原均「鉄鎖を砕け」論文批判

野田 晋

II 「スターリン主義解体のために」における右翼合同反対派の雑炊学

室伏讓二

III 「世界プロ独の綱領問題」のヤブ睨み世界プロ独論批判

向田 新

IV 混乱の関西風「過渡期世界論総括」

城山 徹

V 武装蜂起を組織するために・召還主義との闘い

日向 翔

●補足第15号(72年8月25日戦旗社—戦旗派).....

- (1) 非公然軍事闘争を拡大し全世界武装闘争を真紅の糸で貫け!
- (2) 恒武闘争の陣形の構築から激動の七〇年代! 一九七一年同盟の政治組織総括
- (3) 恒常的武装闘争(論) 路線の総括と新しい方向
- (4) 非公然軍事の党の規律について
- (5) AIF第2回大会から3回大会へ(総括)
- (6) 沖青同・沖繩人民との更なる連帯をめざして、沖繩闘争と帝国主義の腐朽化との闘い

(7)レーニン民族理論の総括	野田 晋
(8)レーニン主義党の諸原則とは何か・その2『何をなすべきか』ノート	赤目猫蔵
(9)IMFの崩壊と現代過渡期世界の再編	渡海俊治
(10)七〇年代労働運動の更なる推進のために	
●補足第 16 号(73 年 4 月 30 日戦旗社一戦旗派).....	
(1)共同反革命を蜂起・内戦へ！疎外された諸傾向とわれわれの方向	日向 翔
(2)73春闘をめぐる情勢の流動と革命的労働運動の任務	
(3)転機にたつ現代過渡期世界と田中政府の帝国主義的延命策	
(4)旧八派の現在、第二次ブント諸派の今日	西田 輝
(5)マルクス主義の継承なきエセ・レーニン主義の空洞化、革共同中核派批判	村中 泰
(6)帝国主義に屈したニクソン好みのカクマル「反戦闘争」論の反革命性	北野 陽
(7)タダの「意味付与と解釈」者集団＝第二次ブント系諸雑派批判	野田 晋
(8)女性解放闘争の革命的展開とは何か	立原みずほ